

## 6.長久手子ども食堂

近藤史都

### 1.始めたきっかけと母体

2015年の夏に知人に夏休みになると痩せてしまう子がいると聞き、長久手にそのような子がいるのかは疑問だったが、もしいるのなら助けになりたい、みんなでご飯を…という思いで始めた。みんなでご飯を食べるとおいしいと感じてもらえたらいいなと思っていた。夏休みが始まる前に知人からこの話を聞き、開催するまでの期間は2週間くらいだった。

### 2.これまでの開催日時、食事メニュー、食事以外のプログラム

#### ○開催日時、食事メニュー

2017年

4月12日 クリームシチュー、サラダ、フルーツ

4月26日 キーマカレー、サラダ、フルーツ

5月10日 大根のそぼろあんかけ、厚揚げとじゃがいもの煮物、小松菜の和え物、汁物、フルーツ

5月23日 たまねぎとにんじんの葉のかきあげ、トマトスープ、フルーツ

6月14日 夏野菜カレー、サラダ、フルーツ

6月28日 ハンバーグ、サラダ、さつまいものレモン煮、けんちん汁、フルーツ

7月12日 鰯のフライ、野菜の味噌炒め、スープ、フルーツ

7月26日 鰯のソテー、夏野菜揚げ煮浸し、豚汁、フルーツ

8月9日 じゃがいもスープ、厚揚げとひき肉炒め、ポテトサラダ、フルーツ、ケーキ

8月23日 冬瓜カレー、かぼちゃサラダ、ゼリー

9月13日 ホワイトシチュー、ポテトサラダ、フルーツ

9月27日 鰯のソテー、サーモンマリネ、ポトフ、サラダ、フルーツ

10月11日 カレーライス、さつまいものオレンジ煮、温野菜サラダ、フルーツ

10月25日 コロッケ、豚汁、フルーツ

11月8日 鰯のソテー、サーモンマリネ、ポトフ、フルーツ

11月22日 おでん、エビコロッケ、冬瓜と豚肉のスープ、煮物、フルーツ

12月13日 天ぷら、おでん、酢の物、豚汁、ポテトサラダ、フルーツ

#### ○食事以外のプログラム

市場につとめている伊藤さんという方がイワシを持ってきて、子どもたちに手開きをさせたり、果物などを持ってきてみんなでケーキをつくったりして楽しんでいる。

### 3.参加者の数とグラフ

4月26日 子ども9人、おとな6人、ボランティア7人

6月14日 子ども、おとな合わせて50人ほど、ボランティア7人

6月28日 子ども18人、おとな12人、ボランティア7人

7月12日 子ども10人、おとな10人、ボランティア10人

12月13日 子ども、18人、おとな15人、ボランティア9人

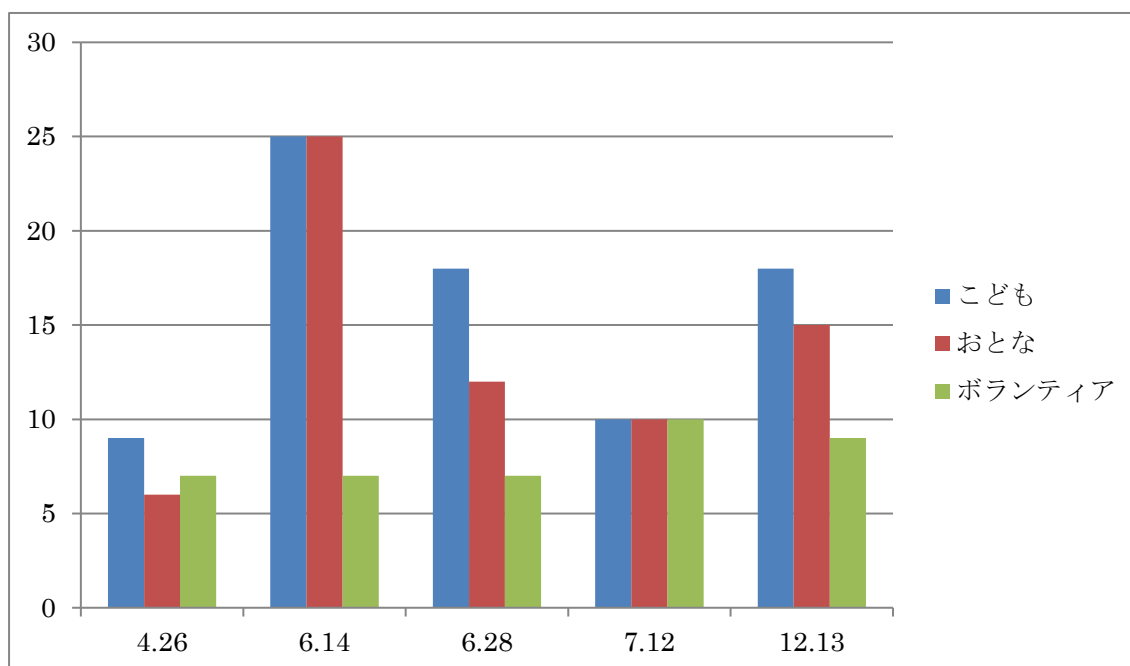


図 1 参加者数

#### 4.参加者の主な居住地、学区

参加者は主に長久手市に住んでいる人たち。

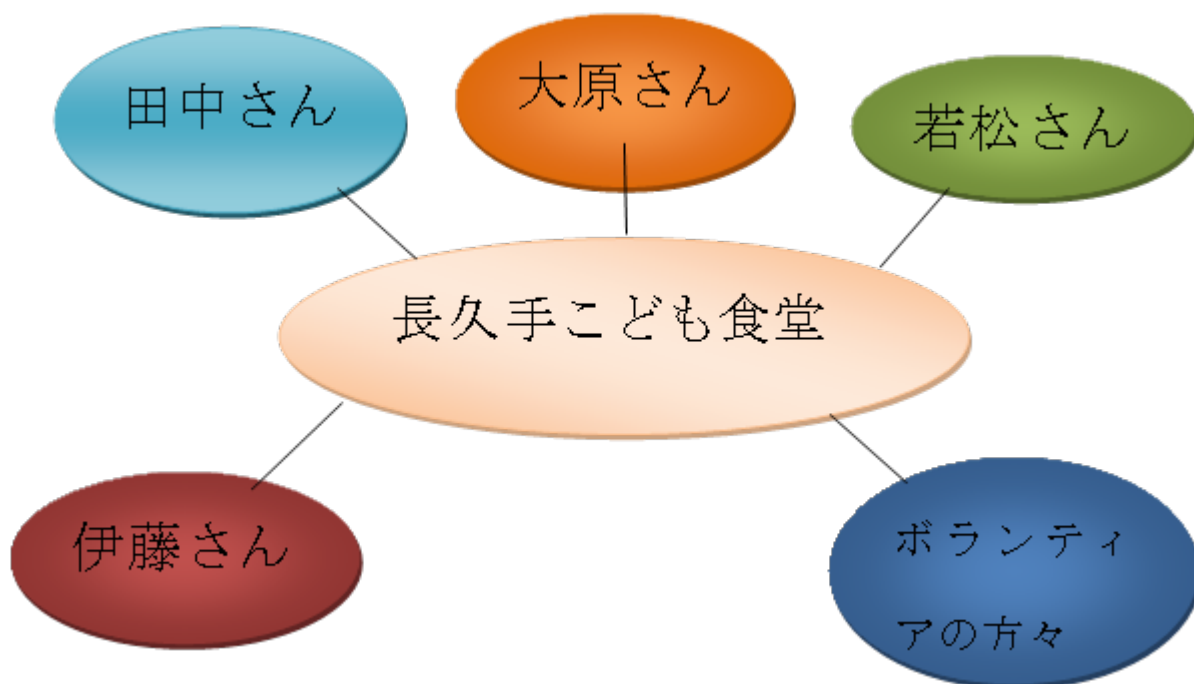
#### 5.抱えている課題

家から近く、歩いて行けるような場所にもっと子ども食堂がたくさんできればよいと思っていて、子ども食堂の広がりを目指している。

#### 6.課題解決のための取り組み

市役所など様々な場所にポスターを掲載し、ビラ配りなども行い、広報活動をたくさん行った。しかしもっとも効果的だったのは、図書館にチラシを置いたことで、図書館から情報が広がっていたようで、他にもテレビ、新聞、参加者の口コミなどで宣伝を行っている。

#### 7.長久手子ども食堂を支える関係者マップ



場所は長久手中央図書館の横にある NPO 法人「楽歩」が経営しているカフェを使用しており、第 2 水曜と第 4 水曜に開催している。参加者は幼い子を連れたお母さんやお父さん、仕事でいそがしく、仕事帰りで子どもと一緒に利用する人など様々である。

代表の方は大原由恵さんで、また毎回参加している伊藤さんという方が市場に勤めていて、野菜や魚、パンなど食材を持ってきてくださっている。

## 8.長久手子ども食堂でボランティアをして感じたこと

最初こども食堂というワード自体知らなかったが、実際に行ってみて、貧困対策という感じは一切なく、和気あいあいとにぎやかな感じだった。また子どもだけでなく、親同士でも楽しくお話をしていて、子どもも大人も楽しめる空間になっていた。

しかし、長久手子ども食堂自体、会場があまり大きくないため、夏休みなど学校が休みのときは子どもたちがたくさん来てくれて席がいっぱいになってしまい、子ども食堂の外まで人が並んでいて、料理を出すのに時間がかかり、待たせてしまったと思うときがあった。